

指名ドラフト

# 高橋投手「夢かなった」

## 県勢3人、憧れの舞台へ

25日に行われたプロ野球のドラフト会議で、指名を受けた本県関係3選手。恩師らの祝福を受け、憧れの舞台での活躍を誓った。

「1位で名前を呼ばれた瞬間はまさかという思いだった。プロ野球選手になるという夢がかなってうれしい」。巨人から1位指名を受けた八戸学院大学の高橋優貴投手(21)は同大で開かれた記者会見で白い歯をのぞかせた。【本記1面】

同大硬式野球部寮のテレビで、ドラフト会議の様子を見守っていた高橋投手。「巨人1位」で名前が呼ばれると思わず「えっ？」と声が出て画面を二度見したという。

中学、高校とエースではなかったという高橋投手。同大では最速152キロの直球を武器に主戦としてチームをけん引した。4年間過



巨人から1位指名を受け、八学大野球部のチームメイトと一緒に喜ぶ高橋投手(中央)＝25日、八戸市の同大

ごした八戸市での思い出については「遊ぶところが少なくて野球に打ち込めた」と苦笑い。「技術的にも人間的にも成長できた。(正村公弘)監督やチームメイト、全の人に感謝を伝えたい」と声を弾ませた。

会見場に姿を見せた正村監督は取材に「(1位は)正直びっくり。まだまだ伸びしろがあると評価されたのでは」。高橋投手への期待を聞かれると「先発ローテーション入りし、2桁勝利を挙げられる投手になっ

てくれれば」と話した。目標とする選手には阪神の藤川球児投手を挙げた。「やっとスタート地点に立てた。自分の投球でチームを勝利に導く選手になれるよう、一つ一つ積み重ねていきたい」と力を込めた。

また、阪神が3位で指名した木浪聖也内野手(24)は青森山田一亜大出、ホンダは青森市出身で右投げ左打ち。高校では主に三塁手を務め、同級生で現中日の京田陽太内野手と鉄壁の三遊間を築いた。

木浪内野手が小学校の6年間所属した「安田ヤンヤン少年野球チーム」の澤田憲郎監督は、同チーム初のプロ野球選手誕生に「夢の活躍はチームの励み。」と喜びを語った。

子どもたちに夢はかなったことを教えてくれた」と喜んだ。

青森山田リトルシニアで監督、青森山田高で部長として指導した三浦知克監督は「プロの世界で困難を乗り越える精神をたたき込まれている選手。全く心配はしていない。本当におめでとう」と祝福した。

ヤクルトが育成選手で1位指名した内山太嗣捕手(22)は八工大一、栃木ゴールデンブレーブスは平川市出身。右投げ右打ちで、強肩を生かしたスローインが持ち味で、高校3年生の夏の県大会ではチームの8強入りに貢献した。内山捕手は記者会見で「プロで活躍して結果を残せるよう頑張りたい」と語った。